



大学生がお手伝いします!

吉備国際大学では、市民と学生との交流を深めることを目的として、サークル（部活動）を中心に、ボランティア活動や地域の催し物などのお手伝いをしています。

今後も市内を中心に、多くの皆さんとの交流を深めていきたいと思っています。ご連絡をお待ちしています。

また、体育系サークルは数多くの全国大会で活躍しています。第65回国民体育大会（ゆめ半島千葉国体2010）に、本学女子サッカー部（単独チーム）が岡山県代表として出場、サッカー競技女子で準優勝という快挙を達成しました。その後、チャレンジリーグ（日本女子サッカーリーグ2部）入れ替え戦に勝利し、来季からの同リーグへの参入が決まりました。2011年も昨年以上にいろいろな舞台で活躍できるようがんばりますので、併せて応援をよろしくお願ひします!!

《内 容》

イベントの出し物、地域のボランティア活動、スポーツ教室の手伝いなど、どんなことでも構いません。ただし、市民と学生との交流を目的とした活動にしてください。

《サークル》

- ☆体育系
 - サッカー部、野球部、ソフトテニス部、弓道部、アーチェリー部など
- ☆文化系
 - 吹奏楽部、手話サークル、ボランティアサークルなど

■問い合わせ 吉備国際大学学生課 (☎@7420)

寝台特急「サンライズ出雲」号で行く 春休み・国会議事堂見学ツアー

3月25日(金)～27日(日)

JR伯備線備中高梁駅利用促進協議会は、寝台特急「サンライズ出雲」号の備中高梁駅恒久停車実現に向けた取り組みとして、同駅への臨時停車企画第3弾ツアーを次のとおり計画しています。

■旅 程

	日 程
3/25(金)	備中高梁駅(21:48発・臨時停車) — 〈サンライズ出雲号〉(車中泊)
3/26(土)	— 東京駅(7:08着) … 東京都内〔終日フリー〕… ホテル〔泊〕
3/27(日)	ホテル … 国会議事堂見学・昼食 … 東京駅(14:40集合/15:10発) — 〈新幹線のぞみ号〉 — 岡山駅(18:30着/19:05発) — 〈特急やくも号〉 — 備中高梁駅(19:39着)

■旅行代金 大人：44,200～47,900円、小人：31,400～32,000円 ※ホテルの部屋タイプにより金額が異なります。詳しくは、申込先へお問い合わせください。

■募集人数 24人

■募集期間 3月4日(金)まで ※募集人数に達し次第、締め切ります。

■申込先 受託販売者ビホクツリスト (☎@8778)

■旅行実施・企画 備北バス(株)岡山県知事登録旅行業2-83号(株)全国旅行業協会会員

■その他 同協議会で、旅行代金の一部助成を行います。

■問い合わせ JR伯備線備中高梁駅利用促進協議会事務局 (総合政策課内☎@0286)

編集後記

先月31日には高梁で氷点下8.1度を記録し、1月の観測史上最低を更新するなど、この冬は本当に寒かったですね。寒さのあまり外出もおっくうになり、当然のことながら運動量は減ってしまいました。せっかく「我が家ではつらつチャレンジ60」に挑戦して減っていた体重も、すでに元に戻りつつあり…。もっと活動的に過ごさなければと反省しています。

今回「カメラあらかると」でご紹介した親子ピクスや成羽小6年生の給食など、取材で出会った子どもたちはいつも元気いっぱい、毎回パワーを分けてもらったような気分になります。季節は春へ。子どもたちに負けないようパワフルに取材に出掛け、いろいろなまちの話題を皆さんにお伝えしていきたいと思っています。(Y・M)

地名を歩く

七十四 三 沢



美沢家屋敷跡の石垣



三沢横山方面

「三沢」は川上町三沢で、近世の三沢村でした。明治二二年に手荘村となつて、大字となりました。「三沢」は東には井原市美星町水名が、西には川上町地頭や川上町仁賀があり、南は井原市美星町黒忠や明治と境を接しています。国道三一三号線に沿つて三沢川が北流して地頭で領家川や西谷川と合流しています。「三沢」は三沢川が吉備高原を浸食して流れる谷筋や枝状になった多短谷の谷状の窪地に集落が点在しています。わずかな平地は水田に利用され、斜面は畑地が多く、地形は複雑で明治頃の村誌に「土地高低一ナラズ四五歩ハ高燥多クハ 天水受ノ地」と書かれています。この地域の地名にも、「の上」「下」とか「日名」「陰地」「追」「久保」「谷」「平」「マエ」「ウシロ」「ハナ」「曾根」「の尻」などの小字地名が大変多いところで、谷地形の特色がよく分かる地形なのです。また、三沢は水利に恵まれない地域で、小字地名にも「汲川之元」「汲川の奥」「汲川の上」「汲川の尻」「ホリ川の下」「水汲場」などの地名がたくさん残っていて、古くから自然水に頼る生活があったことが分かります。

「三沢」は歴史も古く、毛利の支配—小堀政次の支配(幕府領)—元和三年(一六一七)成羽藩山崎氏領—幕府領—万治元年(一六五八)旗本山崎氏領(のち成羽藩)となつて明治を迎えています。近世の村高は「正保郷帳」(一六四五～四六)では二二五石余り、のちの「天保郷帳」(一八三四頃)では六四七石余りとなつています。万延元年(一八六〇)頃の「備中村鑑」では五三〇石となっています。山崎氏時代(一六五八～)には六四四石余りと増加し(「川上町史」)、明治になると六五三石余り(「旧高田領取調帳」となっていて、山崎氏時代に年貢の増大が図られたことが考えられるのです。「三沢」は、近世初期の村の面影を残していて、寛永二一年(一六四四)の「備中国川上郡之内三沢村家数牛馬改帳」(成羽町史料編)の史料に三沢村について農民の住宅建物の規模や人数、牛馬数持高などが各戸別に書かれています。例えば「一、高二百二拾五石五斗一升五合、三沢村 此人数二百五拾二人、此わけ、一 高拾六石七斗四升式合 庄屋助左衛門(略) 家三間 八間 はい屋 式間 六間 馬屋 二間 五間 此人数拾六人、助左衛門年五拾八 女房四拾三」などと詳しく村全戸について記録されています。終わりに「家数合 八拾四間内三拾三御役目仕分、人数合 式百五拾式人内、男百式拾九人、女百式拾三人」。「右之通少も相違無御座候 寛永廿壹年申九月

日」三沢庄屋 助左衛門 五右衛門(略)」。この史料は江戸時代初期の三沢村の村落構造が分かる貴重な史料なのです。野田地区には城山(一九七・七メートル)と呼ばれる山に国吉城の支城だったといわれる野田城址があります。段の跡には武士が信仰した魔力支天が祭られています。「三沢」には、地藏堂、荒神堂、大師堂、観音堂などの辻堂が各地に残り昔の人々の信仰の厚さを忍ばせてくれます。産土神は横山八幡宮で拝殿の前には元文五年(一七四〇)銘の石灯籠があり、石鳥居は、宝暦三年(一七五三)建立となつていて、本殿は天保元年(一八三〇)に再建されたものです。淀地区には三沢村の庄屋だった美沢家の広大な屋敷跡があつて立派な石垣が残っています。「三沢」の地名の由来については二つの説があります。一つは、「沢」という意味から、「沢」は「山間の水のあるところ」とか「谷」「谷川」「溪谷」の意味を表わします。東日本では「谷」のことを「沢」といいます。「三沢」の地名は城平川、大見谷(三沢川)、日出谷の三つの谷(沢) からついた自然地名だという説と、二つめの説は、島根県美沢の庄より、美沢氏が移住したことからついた地名であるという二つの説があるのです。(文・松前俊洋さん)